

霞ヶ浦・三ツ又沖に

沈んだ鐘

—— かすみがうら市・歩崎沖

奈良時代に常陸国府が置かれた石岡市の国分寺には、雌雄の鐘があつたそうです。鐘は鉾田市の子生こなほの海岸に流れ着いた鐘で、領民たちが苦勞して国分寺へ運んで寄進したものでした。

国分寺のこの雌雄の雌鐘のある夜、盗賊たちが盗み出したのです。盗賊たちは鐘を川船に乗せて恋瀬川を下り、霞ヶ浦の三ツ又沖に差し掛かったところで暴風雨が吹き荒れ、雌鐘が「国分寺恋しや、雄鐘恋しや、ごーん」と鳴ったそうです。

盗賊は驚いて「これは釣鐘を盗んだ罰だ!」と、湖に投げ込んでしまいました。

それ以来、湖底に沈んだ雌鐘が「ごーん、ごーん」と鳴るたびに、
天気が崩れ、霞ヶ浦の漁師たちはこの鐘の音で漁の計画を立てたのです。



時代は下って、江戸時代にはこの話を聞いた徳川光圀が「由緒ある鐘を湖底に沈めておくのはもったいない。何とか引き揚げて元の国分寺に戻そう」と、近隣の婦人たちから髪の毛の寄進を受け、それで綱を作り、その綱を湖底の雌鐘の竜頭リウダウに結び引き揚げようと試みました。

しかし、船の上に引き上げようとした瞬間、ぶつりと切れてしまい、鐘は再び沈んでしまったそうです。

現在、霞ヶ浦に突き出た出島の先端・歩崎は観世音菩薩信仰でも多くの人々に親しまれた景勝地です。公園として整備され、施設も整っています。夕暮れのひと時、歩崎から穏やかな沖を眺め、耳をすますと、鐘の音が聞こえてきそうです。

ちなみにこのお話の一部はJR常磐線石岡駅の一番線ホームに11枚の壁画として描かれています。

〈参考文献〉「民話でつづる霞ヶ浦」(仲田保夫著・暁印書房)ほか



【問い合わせ】かすみがうら市観光商工課 TEL.029-897-1111
【所在地】かすみがうら市坂910-1
【アクセス】常磐自動車道土浦北ICから約30分

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>